

「ライオン岩が教えてくれたこと」

宮城県 石巻市立渡波小学校 6年 ^{にいかわ たける} 新川 雄琉

「ドドド、ドカーン」

突然、聞いたこともないような大きな音と、お腹に響くような低い地響きが聞こえた。僕は最初、雷が落ちたのかと思った。

時間は夜の 10 時ごろ、布団からとび起きた僕がお母さんと一緒に外に出ると、家の前にはたくさんの方が集まっていて、そこで初めてがけ崩れが起きたことを知った。かけつけた消防車や救急車、パトカーのサイレンの音に包まれながら、崩れたのが大好きな「ライオン岩」だったことが分かった。

僕が5歳のころ、新しい家に引っ越してきたとき、家の裏には、山の一部の岩がむき出しにせり出ている不思議な山があった。新しい家で過ごしていくうちに、裏の山では昔、岩が切り出されていたこと、むき出しの岩肌と周りの木がたてがみのようにしげる様子から地元の人たちに「ライオン岩」と呼ばれ古くから親しまれていることを知った。

学校へ行くときや家族で出かけるとき、そして家に帰って来るとき。いつもライオン岩はそこから見下ろし、僕や家族を迎えてくれた。だから、ライオン岩が崩れたことを僕は信じたくなかった。

次の日、学校に行くと教室はライオン岩が崩れた話題で持ちきりだった。友達の話聞いて、落ちてきた岩が近くの老人施設の壁に大きな穴を開けたことや、今でも巨大な岩が転がり落ちているということが分かった。

(もし、崩れた岩が落ちてきたのが老人施設ではなく、僕の家だったら…。)

僕は大きな不安を感じた。

その日から、僕は色々な山の様子を観察するようになった。仙台に向かう途中の東松島市の山、サッカーの遠征で通りかかった松島の山、色々な場所の山を見ながら気がついたことは、山には色々な斜面があり、そこに暮らす人たちのために様々な工夫がされていたということだ。

例えば、ライオン岩のような、切り立つように急な斜面は、コンクリートでがっちり固められていること。先生に聞いて、これが法面と呼ばれていることが分かった。これまであまり注意して見たことは無かったが、実際に法面された斜面を見上げてみると、首が痛くなるくらいまで高くおおわれていることに気がついた。これほど急で高い斜面の法面工事が、人の力によって行われたということに僕はおどろいた。

また、山側に何もされていないような斜面であっても、交通量の多い道路や住宅との間にはフェンスやもっと丈夫なガードレールのようなものがよく設置されていることに気がついた。これは、土砂や落石を防いだり、危険な場所への進入を禁止したりしているのだろうと思う。他にも、落石注意の看板や、標識があったり、実際に設備を設置している工事現場を見たりしながら、人が暮らしたり人や車が通ったりする場所の多くは、人の手によって安全に守られているということに気がつかされた。

がけ崩れが起こったすぐ後、ライオン岩のすぐ下には、高さ5m、幅 35mもある大きな防護ネットが設置された。いつがけ崩れが起こるかも分からない中で、作業を続けた人たちがいたことを僕は知っている。そして作業をする人たちは半年たった今でも、岩が崩れ落ちてくるたびに、ライオン岩の下で防護ネットの状態を確かめたり、丈夫にする工事をしたりして僕たちの安全を守ってくれている。ライオン岩のがけ崩れは、僕にこれまでに気がつかなかった「当たり前」の安全の真実を教えてくれたのかもしれない。

今日も僕は家を出てライオン岩を見上げる。やっぱり僕は、ライオン岩も見下ろすこの場所も大好きだから。防護ネットが結んでくれた、ライオン岩と僕たちの暮らしの「絆」。それを支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを僕は大切にしたい。